

第1回富山県総合教育会議における主なご意見等

番号	論点の別	視 点	ご 意 見 要 旨
1	全般的事項	基本的な考え方	・ 高校教育のあり方検討にあたっては、次の2点に留意して議論を進めたい。 ①教育は政治と非常に関係があるが、政治が教育に対して介入し過ぎてはいけない。 ②いろいろなことを決め過ぎて生徒の自由を束縛してはならない。
			・ 高校教育のあり方検討にあたって、高校でどういう教育ができるのか、今できない教育をどう新しい高校でやっていくのかと、いった議論を進められたらいい。この議論を単に数合わせのような話には終わらせたくない。
3	学級編制	学校の規模	・ 富山県の高校では、成績が同程度の生徒を1つの高校に集める傾向が強いと思う。多様な人たちと関わるという点では、もう少し違うやり方があるのではないか。 ・ 高校段階の教育では、ある程度の数の中でのいろいろな人と関わりあいながら切磋琢磨するということが重要。
4			・ 高校段階では、学年あたり6～8学級程度の学級数があるとよい。一定規模を確保することにより、結果として、例えば、一校に普通科のみでなく職業科や総合学科と混在するのもよい。
5			・ 小杉高校と上市高校では総合学科を設置しているが、学校規模が小さく、生徒が多様な選択をできていない。多様な選択ができるためには、通常の3～4倍の学校規模が必要だが検討の一つとしてはどうか。
6			・ 学級数の減により高校が小規模化するというのは、教員の働き方改革にかなり直結する問題だ。ある程度の規模を維持することによるスケールメリットがあり、働く教員にとってもメリットがある。
7			・ 職業科の場合、県内に1校だけの学科があってもいい。学校数を減らしてひとつの学校の規模を維持するなり、むしろ規模を大きくするのもいい。

番号	論点の別	視 点	ご 意 見 要 旨
8		学科のあり方（職業科）	<ul style="list-style-type: none"> ・「職業科」という名称ではなく、例えば「専門科」などとしたらどうか。 ・高校を卒業して就職するという選択肢だけでなく、大学進学を目指すことができる、そして就職することもできる高校を設けたらどうか。 ・高等専門学校のようなコースと就職を目指すコースが同じ高校に並存する高校も検討したらどうか。 ・総合選択制や、例えば芸術を専門に学ぶなど特定の分野を専門に勉強するという位置付けの学校があってもいい。
9		生徒の希望をふまえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ・学級減や学校の統合等を決める際、生徒の気持ちや希望が後回しになり、数合わせのようなことが先行するのは好ましくない。生徒の希望を丁寧に吸い上げ、それに沿った学級編制のあり方を検討してほしい。 ・県立高校でも、なかなか学校へ行けない生徒や外国人生徒などに丁寧に対応してほしい。
10		学校のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・ある県で、中高一貫校を公立で11校作ったという話を聞いた。何らかの意図があるのではないかと感じるので、調査してほしい。
11	公私比率	公私比率の役割	<ul style="list-style-type: none"> ・「公私比率」は、大人の論理で決めているものだと思う。公立あるいは民間の経営というそれぞれの事情はあるが、公私比率を定めるということはそろそろ考え直す時期が来ているのではないか。 ・企業人の立場から言えば、公私比率を決めていること自体がおかしいと思う。大人がいろいろと決め過ぎて、子どもたちを不自由にしているのではないか。
12			<ul style="list-style-type: none"> ・「公私比率」は、学級編制や学級数を考えるうえで、大きなキーとなる。基本的な考え方をどうするのが課題だ。
13			<ul style="list-style-type: none"> ・公私比率の議論の前提には、「公立高校に不合格となった生徒が私立高校へ進学する」という構図があったためと考えられる。今後は、そうした構図、前提にとらわれずに議論すべき。
14		公私立の役割・あり方	<ul style="list-style-type: none"> ・富山県の公私比率は、他県に比べて公立（県立）の割合が高いが、県立、私立の学校数を考慮すればこの程度の比率になるのは理解できる。 ・県立高校が、時代の流れや生徒・保護者のニーズに合った適正な枠を設定し、私立高校は、それを踏まえて、独自の特色、魅力を検討するのがよいのではないか。
15			<ul style="list-style-type: none"> ・公私立高等学校連絡会議で、公私比率に限らず、教育内容に関する議論も深めてほしい。
16			<ul style="list-style-type: none"> ・県立高校の魅力、特色をより高めて、中学生や地域の方々に魅力を発信していくことが必要だ。 ・公私立が共に選ばれる学校であるためには、公私間の情報交換や、教員や生徒の交流などがあるとよい。

番号	論点の別	視 点	ご 意 見 要 旨
17	普職比率	学級編制との関連	・今年は普通科が目安の66%程度を下回っている。これをどう考えるのかというのは課題だ。
18			・職業系の専門学科は、それぞれ専門分野が分かれており1学科1クラスという高校が多い。
19		職業科の役割	・職業科の高校では、かなりの割合の生徒が進学しており、現在の職業系の専門学科が、その果たすべき役割を担っているのか、という点には少し疑問を感じる。
20			・高校の今の職業科を存続させることだけを考えていたのでは、あるべき姿を見い出せなくなるのではないか。職業科を無理に残しているようにも感じるが、生徒の希望を取り入れて大胆に見直したらどうか。
21			・15歳の段階で明確に自分の将来を描けない生徒も多くいるなかで、職業科などの学科を細かく分け過ぎるのは、少子化に向かっていく中であっては少しそぐわないのではないかと思う。
22			・学区制は、各学区の中で生徒のさまざまな学習を保障する、あるいは同じ教育課程の学校があることが前提としてあるが、学習指導要領の柔軟化により、今後さらに、各学校では多様化、差別化が進むと考えられる。
23	・学校数が減っている中で、子どもたちの選択肢が増えるという点では、普通科においても、職業科と同様に学区の縛りを無くした方がよいと思う。		
24	・学区をひとつにした場合、高校の選択の幅が広がる一方で、志願状況によっては、特定の学校や地域に志願者が集中するという懸念もある。そうすると各学校がもっと頑張らなければならない。		
25	学級編制を考えたうえでの学区		・本県の学区は他県に比べてかなり緩く、今の時代の流れにも対応できると思う。ただ、仮に学区の取扱いを検討するのであれば、現在の学区の基本的な考え方などを踏まえて議論を進める必要がある。
26			・これまでは、学区ごとの生徒数を基礎として学級編制を行ってきたが、生徒側も「入学できる学校よりも入学したい学校を選ぶ」という傾向にあり、その流動性は今後ますます高まる。そうなれば、学区内の生徒数以外の要素を検討することも必要だ。
27	学校の魅力化、多様化		・今後、特色を持った魅力のある学校づくりが進むのであれば、学区を越えて学びたいという生徒が出てくるのは当然の流れだと思う。「あの学校にどうしても行きたい」と思える学校づくりができるのであれば、学区という制限は無くしていかなければならない。

番号	論点の別	視 点	ご 意 見 要 旨
28			<ul style="list-style-type: none"> ・学区の役割はそろそろ終わりではないかという意見が多いように思う。仮に学区制を廃止するのであれば、各学校にもっと権限を移譲し裁量を持たせて、魅力ある県立高校を作っていくことが大切だ。 ・学区制を廃止して、県内全域の高校へ進学できるようになれば、1校しか受験できない現在の県立高校入試のあり方も一考の余地がある。
29		学校の配置	<ul style="list-style-type: none"> ・仮に学区が無くなれば、県下全域を考えた学校の配置などを検討することができるのではないか。 たとえば、公共交通機関が集中する地域に基幹校のような大規模な高校を配置するなどが考えられる。